

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-253860

(43)Date of publication of application : 12.10.1990

(51)Int.Cl.

B02C 18/14
A22C 7/00
A23L 1/20
A23L 1/325

(21)Application number : 01-075858

(71)Applicant : IWAI KIKAI KOGYO KK

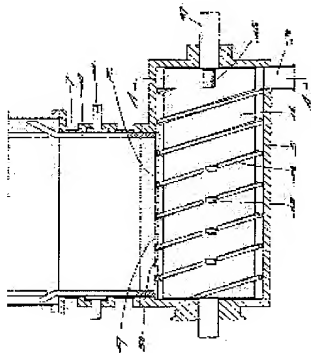
(22)Date of filing : 28.03.1989

(72)Inventor : HOSOKAWA TOSHIO

(54) FREEZE CRUSHING, MIXING, PULVERIZING AND CONTINUOUSLY PROCESSING DEVICE**(57)Abstract:**

PURPOSE: To effectively reveal the functionality of protein in the upper limit by utilizing a crushing cylinder in which a crushing rotary drum fitted with a quantitatively crushing blade, a feed blade and a delivery blade is incorporated.

CONSTITUTION: A crushing cylinder 5 is provided with both one set or plural sets of feeders 2 for a frozen raw material block and a delivery port 3 of pulverized material. Further a crushing rotary drum 16 is incorporated which is fitted with a plurality of quantitatively crushing blades 13 described hereunder, a spiral feed blades 14 and a delivery blade 15. The crushing blades 13 have a feed structure of crushed material having a cutting-off and left/right lateral cutting knife-edge and furthermore have two kinds of right and left mirror-image pairs formed of this feed structure as a fundamental constitution. As a result, temp. rise is inhibited and the raw material is uniformly pulverized about to micron and simultaneously an additive is uniformly dispersed and mixed. The functionality of protein is effectively revealed at the upper limit.

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-253860

⑬ Int. Cl.⁵

B 02 C 18/14
A 22 C 7/00
A 23 L 1/20
1/325

識別記号

1 0 4
1 0 1

庁内整理番号

Z 7112-4D
A 7421-4B
Z 7823-4B
H 7732-4B

⑭ 公開 平成2年(1990)10月12日

審査請求 有 請求項の数 9 (全16頁)

⑮ 発明の名称 凍結破砕混合微粉砕連続加工装置

⑯ 特 願 平1-75858

⑰ 出 願 平1(1989)3月28日

⑱ 発 明 者 細 川 利 雄 東京都大田区東糀谷3丁目17番10号 岩井機械工業株式会社
社 内

⑲ 出 願 人 岩井機械工業株式会社 東京都大田区東糀谷3丁目17番10号

⑳ 代 理 人 弁理士 杉 山 泰 三

明 細 書

発 明 の 名 称 凍結破砕混合微粉砕連続加工装置

特許請求の範囲

1. 1組または複数組の凍結原料ブロック供給装置および破砕物の送出口(3)をもち、また突切りと左または右の横切削の刃先を有した破砕物の送り込み構造をもつ左右勝手通いの2種1対を基本構成とした複数の定量破砕刃物(4)ならびに螺旋状の送り羽根(4)および送出羽根(4)付き破砕回転ドラム(4)が内蔵された破砕シリンダ(5)をもつことを特徴とする凍結破砕混合微粉砕連続加工装置。

2. 螺旋状の送り羽根(4)の外周縁と破砕シリンダ(5)の内周面と間に破砕物が越出することを阻止

する補助部材を同内周面にもつことを特徴とする請求項1記載の凍結破砕混合微粉砕連続加工装置。

3. 破砕シリンダ(5)の外周壁に開設された凍結原料ブロック(1)の投入口(2)と、投入口(2)の外側に傾斜状で固定された投入筒(7)と、投入筒(7)の外端に取付けられたホッパー(8)と、凍結原料ブロック(1)の保持用板(4)および保持用板(4)に往復動を与える往復動装置(4)と、保持用板(4)の上端部に上乗せした可動式ガイド板(9)とを備えた凍結原料ブロック供給装置をもつことを特徴とする請求項1または2記載の凍結破砕混合微粉砕連続加工装置。

4. 破砕物移入口(4)および微粉砕物送出口(4)をもち、また刃先(4)が回転と逆の方向に行くに従つ

(2)

て高くなると共に回転方向に対して僅かに傾斜する向きとなる多数個の刃部20を勝手速いで有する複数の混合微粉砕刃物20を刃部20が波状を呈する配置としてもつ微粉砕回転ドラム20を内蔵され、更に微粉砕回転ドラム20の外周面において破砕物移入口28と対応する個所にかき取り刃24および傾斜送り面26をもつ多数個のかき取り送り羽根26を当該傾斜送り面26が上方への送り用螺旋体を形成する配置として設けられ、同じく微粉砕物送出口29と対応する個所に微粉砕物送出羽根26を周設された微粉砕シリンダ20をもつことを特徴とする凍結破砕混合微粉砕連続加工装置。

5. 微粉砕物移入口28および乳化物取出口29をもち、また刃先が回転と逆の方向に行くに従つて

工装置。

7. 破砕シリンダ(5)と微粉砕シリンダ20を有し、破砕シリンダにおける破砕物送出口(3)と破砕物移入口28とを配管により連結されたことを特徴とする請求項1、2、4または6記載の凍結破砕混合微粉砕連続加工装置。

8. 配管の途中に破砕物からの脱気を目的とした脱気装置が接続されたことを特徴とする請求項1、2、4または7の記載の凍結破砕混合微粉砕連続加工装置。

9. 破砕物送出口(3)と破砕物移入口28とをできるだけ直線とされた破砕物送り管22により接続され、この破砕物送り管22の基端部分を僅かに細い径として整形密封管28を設けられ、また破砕物送り管22の適宜個所に同破砕物送り管22および

高くなると共に回転方向に対して僅かに傾斜する向きとなる多数個所の刃部20を勝手速いで有する複数の混合微粉砕刃物20を刃部20が波状を呈する配置としてもつ乳化回転ドラム20を内蔵され、更に乳化回転ドラム20において微粉砕物移入口28と対応する個所に微粉砕物送り羽根26を、同じく乳化物取出口29と対応する個所に乳化物送出羽根26を周設された乳化シリンダ20をもつことを特徴とする凍結破砕混合微粉砕連続加工装置。

6. 微粉砕物送出口29と微粉砕物移入口28とをできるだけ直線とされた微粉砕物送り管22により接続され、この微粉砕物送り管22に副原料供給装置を連結するための副原料投入口24を設けられたことを特徴とする凍結破砕混合微粉砕連続加工装置。
- び微粉砕シリンダ20内を真空として脱気する真空ポンプを連結するための連結口20を設けられたことを特徴とする請求項1、2、4、7、または8記載の凍結破砕混合微粉砕連続加工装置。

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は主として畜肉、魚肉および大豆の連続加工法について検討したもので、主要成分である蛋白質の機能性を、効果的に、最大限発現させることができる機械装置、凍結破砕混合微粉砕連続加工装置に関するものである。

〔発明の概要〕

蛋白質の機能性を利用した多くの食品、蛋白

(3)

食品は、水分含有率の高い固体状製品である。

この蛋白食品で主に利用される機能性は水分を多く含ませるために蛋白質を高分子化することである。しかし、これらの原材料も、他の食料品と同様に多成分の不均一混合系であるので、蛋白質のみを独立して取り扱うわけには行かず、蛋白質の機能性発現は夫々の原材料ごとに困難な問題がある。

蛋白質の機能性を高めるには蛋白質濃度を上げると共に、他の成分を排除すればよいことであるが、これでは食品としての大切な総合的栄養価は低下する。

本発明は蛋白質が高分子化となるための阻害要因を抑制させつつ、反応に寄与するものを直接的に作用させることを、物理的な手段により

効率的に確立させた装置である。

この装置の技術的な要点は、凍結原料ブロックを解凍されない条件化で破砕することにより内部に分散していた水が破砕時に多数の刃物として働くことが第一のポイント、破砕物に立体運動を与えて切断する刃物システムが第二のポイント、この破砕物と凝固剤とを定比率で連続的に合流させ且つ上記刃物システムを一定間隔で複数設け置いた機構に合流物を通過させることが第三のポイントである。

(従来の技術)

蛋白食品では、水分を内在させるのに原料は播漬でゼリー化し、蛋白質の網目構造を固定させた加熱ゲル化製品は一般的である。この蛋白質の機能性を生かしている具体的な食品例では、

となる。美味しさ即ち、嗜好性は味、香り、テクスチャー、外観、温度などで把握し、消費者の好みに合わせて総合的に調整し調理することで得られるものである。

蛋白質が主成分の一つである食品においては、硬さ、粘り、滑らかさ、脆さなどで把握するテクスチャーの調整は大切である。加熱ゲル化による網目構造の形態は水を保有する機能の他に、夫々の食品の特徴に対応したテクスチャーを得る機能も共に必要であり、原材料がもつ良い特性を生かし、消費者の期待に応じて調理するのが美味しい食品づくりとなる。

一般消費者に大量販売する食品は、その製品の安全性を重視し、企業が持つ売れる食品づくりの技術を用い、且つ経済性を考慮して商品化

畜肉はソーセージ類、魚肉については水産物類、大豆は豆腐類である。いずれにしてもその内容は原材料の細胞を破壊して蛋白質の側鎖を露出させると共に、凝固剤として一般に使用されている食塩または硫酸カルシウムなどを微量添加することで蛋白質の機能性は発現させ、保水性を高めさせている。

蛋白質の機能性発現は一種の化学反応である。微量添加物は原材料に含有していた自由水に溶解されるとアルカリ性金属イオンとなり、同時に蛋白質の側鎖に作用することで、蛋白質は高分子化となることの重合反応である。

一般に食品としての価値は栄養価と嗜好性および経済的な要素で評価されるが、消費者にとつては、その食品が美味しいかどうかは関心事

されるものであり、商品の特性に合わせて加工法も具現化させ、生産設備は装置化される。畜肉および魚肉の加工食品の装置化は原材料の形態が複雑であることからくる取り扱いの困難さで、切るとか、混ぜるとか等の比較的簡単な単位操作の機械を組み合わせたものであり、人手の介入を必要とした製造工程は多い。このことにより製品の安全性および品質のパラッキに対する製造上の人手の負担は大きく、また原材料の歩留まり改善、エネルギー利用の効率化などコスト低減の要因は多く残されている。

蛋白質の機能性を効果的に発現させるには、善質となる細胞は均一に破壊して微粒子化し、触媒に相当する添加物も均一に混合させることであるが、これと共に蛋白質の熱変性を抑制す

る。しかし、この原材料循環の負担は大きく、推力を支えるために、分厚い板状の丈夫な機構になつている。このため原材料との接触面積は広く、摩擦熱を発生させる要因になつている。また、添加物の混合では原材料の一部に付着してから始まることから、均一分散は循環回数で多さで決まり、発熱によつてその程度は制限される。

このようにサイレントカッターで蛋白質の機能性を発現させることは、カッターの発熱で微粒子化の度合いも制限され、触媒に相当する添加物の均一分散も、困難であるなど、機構的な制約は大きい。即ち、反応促進の要件となる原材料の表面積増大と添加物の均一分散は効果的に行えず、原材料自身が持っている蛋白質の機

能性は重要である。このゼリー化についての熱変性の度合いは加熱ゲル化に於ける蛋白質の網目構造の形成に影響を受け、テクスチャーへ直接的に左右するので美味しさの良否につながるからである。

加熱ゲル化前の仕上げ工程、攪拌には、サイレントカッターで代表される機能の機械が使用されている。この機械は一定用量の容器カッターを組み付けたものであり、カッターの機能で原材料の切断と混合を行う。しかし、カッティングにおいては容器内の全ての原材料を循環させる方式であるため、カッターは本来必要としている機能の切断にはあまり寄与していない。カッターは刃先のみが作用して切断されるが、他は、この刃先を支えるためと原材料の循環機能であ

る。機能性は、充分な状態で、発現されない。

畜肉および魚肉において、高分子化となる蛋白質のミオシンについては反応に必要な塩分濃度は最低約0.6%である。しかし、ソーセージ類の製造に於ける食塩濃度は、畜肉基準で約5%で、最終の製品基準で約3%になつており、更に糊剤の澱粉とゼラチンとは合わせて約1.8%も使われている。このようにサイレントカッターに代表される機構の機械装置においては、健康志向の消費者要求に対応する低塩分化の製品を処理することは、この攪拌方式そのものに機能的な限界がある。

〔発明が解決しようとする課題〕

従来の技術に於ける蛋白質食品の攪拌では、原材料の切断サイズは1ミリメートル前後のオー

ダーにししかできず、しかもそのバラツキが大きい。蛋白食品となる畜肉、魚肉および大豆においては、蛋白質はその原材料の細胞に含まれており、そのサイズはミクロンメートルオーダーである。添加物に作用して、セリー化および乳化、加熱ゲル化されるのは、原材料が切断されて、その差質となる反応基が露出されてからである。即ち、蛋白質の機能性を、効果的に、最大限発現させるには、原材料については蛋白質の変性が起こらないように温度上昇を抑制させて均一にミクロンメートルオーダーの微粒子化することであり、そして添加物は、これと同時に均一に分散させて混合することで、達成される。

従来の技術では達成されなかつた原材料別の問題は次の通りである。畜肉については、塩

(5) 分を低減すること、有害作用のある亜硝酸塩を用いない肉色の固定化、硬蛋白質のゴラーゲンやエラスチンなどが多い食肉を柔らかくすることである。魚肉については、塩分を低減すること、骨を全て微粒子化した魚肉のすり身化、

イワシなどの赤身魚は魚肉の全成分を利用して薄餅状のテクスチャーが得られると共に肉色も変色しないように固定化することである。大豆については未変性蛋白質にて微粒子状のすり身化することである。

本発明は上記従来の技術では達成されなかつた原材料別の問題点を解決する凍結破砕混合微粉砕連続加工装置を提供することを目的とするものである。

(課題を解決するための手段)

本発明は上記の目的を達成するために、

凍結原料ブロック(1)の投入口(2)(2')および破砕物送出口(3)をもつ破砕シリンダ(5)を構成し、上記投入口(2)(2')の外側に傾斜状態で投入筒(7)(7')を、この投入筒(7)(7')の外端にホッパー(8)を、同じく内側に可動式ガイド板(9)および凍結原料ブロック(1)の保持用板(10)を相互に運動する状態で設けると共に投入筒(7)(7')の外に保持用板(10)に対して往復動を与える往復動装置(11)を装備し、また破砕シリンダ(5)の中に、突切りと左または右の横切側の刃先(12)を有する破砕物の送り込み構造をもつ左右勝手違いの2種1対を基本構成とした複数の定量破砕刃物(13)と螺旋状とされた送り羽根(14)と破砕物送出口(3)に対応する

配置で設けられた送出羽根(15)をもつ破砕回転ドラム(16)を内蔵すると共に破砕シリンダ(5)の内周壁に螺旋状の送り羽根(14)の外周縁と破砕シリンダ(5)の内周面との間に破砕物が越出することを阻止する補助部(17)を設け、

また、破砕シリンダ(5)とは別個に下部に破砕物移入口(18)を上側に微粉砕物送出口(19)をもつ微粉砕シリンダ(20)を構成し、この微粉砕シリンダ(20)と逆の方向に行くに従って高くなり且つ回転方向に対して僅かに傾斜する向きとなる多数個の刃部(21)を勝手違いで有する複数の混合微粉砕刃物(22)を刃部(21)が波状を呈する配置としてもつ微粉砕回転ドラム(23)を内蔵すると共にこの微粉砕回転ドラム(23)の外周面において破砕物移入口(18)と対応する個所にかき取り刃(24)および傾斜送

り面筒をもつ多数個のかき取り送り羽根筒を当該傾斜送り面筒が上方への送り用螺旋体を形成する配置として設け、同じく微粉砕物送出口49と対応する個所に微粉砕物送出羽根筒を周設し、

更にこれ等破砕シリンダ5、微粉砕シリンダ6とは別個に、上側に微粉砕物移入口4を下部に乳化物取出口筒をもつ乳化シリンダ7を構成し、この乳化シリンダ7の中に、上記混合微粉砕物筒とほぼ同様の構成の混合微粉砕乳化物筒をもつ乳化回転ドラム8を上記微粉砕回転ドラム4とは上下逆の向きとして内蔵すると共にこの乳化回転ドラム8において微粉砕物移入口4と対応する個所に微粉砕物送入羽根9を、同じく乳化物取出口7と対応する個所に乳化物送出羽根筒を周設し、

[作 用]

本発明装置により畜肉類の連続加工をする際には、2つの原料を同時に定比率で連続的に破砕し、且つ螺旋状の送出羽根にて破砕物を破砕シリンダから送出し、脱気装置移入口の整形密封管により棒状に固まつた多孔性の破砕物を真空下で脱気し、原料のpH値を6～8の領域への調整で炭酸ナトリウムまたは炭酸水素ナトリウム0～0.5部と食塩0～2.5部またはカゼインナトリウム0～1.0部とを夫々加熱ゲル形成の粘弾性目標値に対応する比率で副原料供給装置により注入し、この副原料が上乗せされた破砕物を送り混合羽根で送出し、原料に複数対の複数段の混合微粉砕物により混合微粒子化し、液B添加物2～6部を一定比率で混合

また、上記の破砕物送出口3と破砕物移入口49とをできるだけ直線とされた破砕物送り管10により接続し、この破砕物送り管10の基端部分を僅かに細い径として整形密封管筒を設けると共に破砕物送り管10に、整形密封管筒から送出された破砕物筒の外周面と破砕物送り管10の内周面との間に形成された空間11および微粉砕シリンダ7内を真空として脱気する真空ポンプを連結するための連結口40と第1副原料供給装置を連結するための第1副原料投入口41とを設け、
次に、上記微粉砕物送出口3と微粉砕物移入口4とをできるだけ直線とされた微粉砕物送り管43により接続し、この微粉砕物送り管43に第2副原料供給装置を連結するための第2副原料投入口44を設けたものである。

微粉砕物筒の副原料供給口から注入し、混合微粉砕物と同様な機能の混合微粉砕乳化物により混合乳化し、

また、魚肉類の連続加工をする際には、2組の凍結厚料ブロック供給装置に温度が-5℃～-30℃の凍結魚肉類ブロックと凍結B添加物ブロックとを夫々投入し魚肉類100部を基準にB添加物2～6部を一定比率へと流量設定に対応する保持用板の単位時間当りの往復動回数を各々設定して複数の定量破砕物により2つの原料を同時に一定比率で連続的に破砕し、且つ螺旋状の送出羽根にて破砕物を破砕シリンダから送出し、脱気装置移入口の整形密封管により棒状に固まつた多孔性の破砕物を真空下で脱気し、原料のpH値を6～8の領域

(7)

への調整で炭酸ナトリウムまたは炭酸水素ナトリウム0~0.5部と食塩0~2.5部またはカゼインナトリウム0~1.0部とを夫々加熱グルン形成の粘弾性目標値に対応する比率で副原料供給装置により注入し、この副原料が上乘せされた破砕物を送り混合羽根で送出し、原料に複数対の複数段の混合微粉砕刃物により混合微粒子化し、液A添加物5~9部を一定比率で混合微粉砕刃物後の副原料供給口から注入し、混合微粉砕刃物と同様な機能の混合微粉砕乳化刃物により混合乳化し、

そして、大豆類の連続加工をする際には、

水に浸漬した大豆類を荒く潰潰して成型凍結したものを原料とし、凍結原料ブロック供給装置に-5℃~-30℃の温度でこの凍

動で横切削を行うことにより破砕物の定量が確保され、また突切りおよび横切削においては1回分の切削厚さが刃先の食い込み幅を一定間隔に確保する刃物構造によりミリメートルのオーダーになることと、この刃物の切削衝撃で原料内に分散してある多数の水破膜が刃物機能になることで、初回の微粒子化は行われて破砕物が得られる。

この凍結状態の切削で再結合となる破砕物は定量破砕刃物の送り込み機能と破砕回転ドラムの螺旋状送り羽根44、送出用羽根45および整形密封管46により、多孔性の棒状に固められ、真空下にある管内に流動されることで外気とが遮断されると共に原料に内在していた空気を抜かれ、酸化は抑制される。

結大豆類ブロックを投入し、処理流量に対応する保持用板の単位時間当りの往復動回数を設定して複数の定量破砕刃物により連続的に破砕し、且つ螺旋状の送り羽根にて破砕物を破砕シリンダから送出し、脱気装置移入口の整形密封管により棒状に固まつた多孔性の破砕物を真空下で脱気し、この破砕物を送り混合羽根で送出し、原料に複数対の複数段の混合微粉砕刃物により混合微粒子化する等の用法に使用するものである。

本発明は上記の通りであるので、移動方向に直交する矩形断面積が同等である凍結原料ブロック(1)を凍結原料ブロック供給装置に次々と投入し、定量破砕刃物41による最初の突切りで一定の切削高さが決められ、次に突切りされない他の部分が切削幅を維持させると共に保持用移

この棒状に固められて移動される物の上には凝固剤が副原料供給装置により定量注入されて上乘せ状態に合流されることで定比率の連続混合の準備は行われる。

次に、破砕物移入口42に達した時にかき取り刃43により細分化され且つ傾斜送り面47により上方に分散状態で移行され、この移行されて来た分散状態物が真空の微粉砕シリンダ内で乳遊している状態で混合微粉砕刃物48における刃部49の傾斜状刃先49aに当つて切断されると同時に凝固剤の分散と混合が行われ且つ混合微粉砕刃物48の刃部の波状配置によつて上方への送り込み機能がなされる。

これらの混合および送り込みの時には、刃先部の接触面積を僅少にした刃物機構を複数段に

配置させ且つ刃端分の滞留量となる構造として通過時間を短くすることで発熱防止と刃物作用の機能を高めさせ、凍結破砕物の融解熱を利用することで機械的な作用の運動による昇温を抑制させると共に蛋白質の変性が抑制されたミクロンメートルオーダーの均一な微粒子化と、反応基へ直接的に作用させる添加物の均一な分散および混合を同時に行うことでセリー化および乳化の機能性は効果的に、最大限発現される。

畜肉、魚肉および大豆において目的となる主要な問題点、すなわち畜肉については金属複合体となるA添加物の蛋白質コンアルブミンをミオグロビンに作用させる肉色固定化と、B添加物の作用にて脂肪を乳化させることであり、魚肉についてはB添加物を水溶性蛋

白質と脂肪に作用させてゲル化阻害要因物質などを乳化させることの他に、A添加物の作用による血合内の肉色固定化であり、畜肉と魚肉の共通の問題点は炭酸ナトリウムまたは炭酸水素ナトリウムを作用させて、ミオシンとアクチンのゲル化機能を発現させると共に、苦味が感じられない領域へのpH調整であり、この他には塩分低減によるゲル化の作用である。全体に共通な問題点は蛋白質の変性を抑制した微粒子化であり、反応基の露出と共に、畜肉の硬蛋白質と、魚肉の骨および、大豆の繊維は、夫々を微細化することである。そして、これらの手段である凍結破砕混合微粉砕連続加工装置においては、その特徴である定量凍結破砕送出と、昇温抑制下の均一な微粒子化と、均一な分散および混合

との同時作用による物理的な手段の加工法は、この各機能を単独または組合わせて利用することにより、畜肉、魚肉および大豆以外の他の分野にも適用が可能であり、これまで困難とされていた諸問題の解決手段へつながらんと予測される。

〔発明の効果〕

本発明は上記のような構成であるので、以下に記載されるような効果を実現するものである。

破砕シリンダにおいて凍結原料ブロックの温度は-5℃以下の低温の固体であるので、原料の種類には差がなく、いずれも同様な切削効果が得られた。温度上昇が数度となる氷が融解しない程度の切削速度を与えると、原料の微粒子化は100ミクロンメートル以下となり、この

段階で微粒子化の程度は従来法を越えた。水産物製品の播液では原料を半凍結状態で使用するか、または氷を添加するかで、温度上昇は10℃以下に制限しているが、これと比較すると、エネルギー的には1/10以下である。また、破砕と送出の機能では複数の凍結原料ブロックによる定比率の切削と混合および送出が連続的に処理されて、その精度はこの固体ごとの切削断面積そのもののバラツキに連動した。

次に、この破砕物が凍結状態を保持しているので一端バラバラにされてから再結合し、脱気装置および原料供給装置においては、多孔性の棒状に固められたものが連続的に通過し、材料に内在していた空気は完全に抜かれると共に、添加物もこれに連続的に上乗せされて定比率の

配合物は微粉砕シリンダへ連続的に供給された。

微粉砕シリンダにおいては、この配合物が未溶解の温度で供給され、混合微粉砕万物には、この出口側で完全溶解直前の温度に相当するエネルギーの切断速度を与えると、原材料の微粒子化は数ミクロンメートルのオーダーに到達した。食塩などの凝固剤が加わっていると原材料の水分が完全溶解した直後に、この重合反応は瞬間的に行われてゼリー化し、粘度が急激に増大する。この瞬間的に行われたゼリー化は均一な微粒子化および添加物の均一分散と混合を示すものである。また、低塩分化のためには微粒子化の度合いを高める必要はあるが、微粉砕処理においてはゼリー化となる原材料の水分が完全溶解する直前で終了させることは、粘度増大による

発熱を抑制させる上で重要なポイントになる。

次に、微粉砕万物以後の微粉砕乳化石物においては、更に調原料が追加供給されて定比率の配合が連続的に行われて、微粉砕万物と同様な万物機構でゼリー化および乳化石は最終的に仕上げられる。加熱ゲル化の条件として、蛋白質の変性を抑制するためには、処理温度は約10℃以下に制限されるが、混合微粉砕乳化石物にはこの温度範囲内での切断速度を与えたことで、最終的な仕上げは達成された。

畜肉においてはpHの調整値を6以上で苦味が発生しない程度としたので、A添加物が有効に作用して肉色は赤色に固定された。そしてB添加物の添加はこれらを補強すると共に、脂肪を乳化してまろやかな味にする。このpH調整の中

和剤は食品添加物であり、中華ソバの製造に使われている炭酸ナトリウムまたはケークなどに使われている炭酸水素ナトリウムである。次に、この中和剤は食塩と同様に寄与し、ゼリー化は食塩を含めた合計の添加量が約1%で達成され、加熱ゲル化の処理ではソーセージと同様なテクスチャーが得られた。これは従来法と比較すると、ナトリウムイオン基準では約1/5である。また、硬蛋白質が多い筋肉の処理でも、これが微粒子化されてテクスチャーは同様な結果であった。

魚肉については畜肉と同様な処理と結果であるが、異なるのは添加物のB添加物が先にA添加物を後にしたことである。これは作用すべき物質の量に違いがあり、畜肉は変色原因のミオ

グロビンを対象に、魚肉では加熱ゲル阻害物質が多い水溶性蛋白質を対象にしたからである。これまで最も困難とされていたイワシについては、原材料の成分をそのまま利用して、この連続加工装置により、加熱ゲル化処理後には薄餅状のテクスチャーは得られた。この原料イワシは比較的新鮮とされたものであり、pH値は約6である。原料の前処理は頭と内蔵と尾および皮を取り除いたものである。この加熱ゲル化後の食品は、中骨と小骨が微粒子化し、イワシ特有の灰色とはならず茶色の肉色を呈し、脂肪も乳化されてまろやかな味となつた。

大豆においては、蛋白質は未変性で濃度も高く、繊維質も蛋白質と同様なサイズの微粒子化が達成された。これを用いて、水で薄めた豆乳

からの豆腐の製造では、オカラの量は従来法の約 $1/2$ であった。

このように凍結破砕混合微粉連続加工装置による加工法は、これまで困難とされていた諸問題の解決に寄与し、新商品開発にも役立ち、生産性の改善につながる等、所期の目的を充分に達成することが可能である優れた効果を奏するものである。

〔実施例〕

図に示す実施例は凍結原料ブロック(1)の左右両側投入口(2)(2')および破砕物送出口(3)をもつ架脚(4)付き破砕シリンダ(5)を構成し、上記各投入口(2)(2')の外側に傾斜状態で投入筒(7)(7')を、この各投入筒(7)(7')の外端にホッパー(8)を、同じく内周に可動式ガイド板(9)および凍結原料ブ

破砕物送出口(3)をもつ微粉砕シリンダ(6)を構成し、この微粉砕シリンダ(6)の中に、刃先(10)が回転と逆の方向に行くに従つて高くなり且つ回転方向に対して僅かに傾斜する向きとなる多数個の刃部(11)を勝手違いで有する複数の混合微粉砕物(12)を刃部(11)が波状を呈する配置としてもつ微粉砕回転ドラム(13)を内蔵すると共にこの微粉砕回転ドラム(13)の外周面において破砕物移入口(14)と対応する個所にかき取り刃(15)および傾斜送り面(16)をもつ多数個のかき取り送り羽根(17)を当該傾斜送り面(16)が上方への送り用螺旋体を形成する配置として設け、同じく微粉砕物送出口(3)と対応する個所に微粉砕物送出羽根(18)を周設し、

更に、これ等破砕シリンダ(5)、微粉砕シリンダ(6)とは別個に、上側に微粉砕物移入口(19)を下

ロック(1)の保持用板(4)を相互に連動する状態で設けると共に各投入筒(7)(7')の外に保持用板(4)に対して往復動を与える往復動装置(20)を装備し、また破砕シリンダ(5)の中に、突切りと左または右の横切刃の刃先(10)を有する破砕物の送り込み構造をもつ左右勝手違いの2種1対を基本構成とした複数の定量破砕刃物(11)と螺旋状とされた送り羽根(17)と破砕物送出口(3)に対応する配置で設けられた送出羽根(18)をもつ破砕回転ドラム(13)を内蔵すると共に破砕シリンダ(5)の内周壁に螺旋状の送り羽根(17)の外周縁と破砕シリンダ(5)の内周面との間に破砕物が越出することを阻止する歯状の補助部(21)を設け、

また、破砕シリンダ(5)とは別個に下側に破砕物移入口(19)を上側に微粉砕物送出口(3)をもつ微

粉に乳化物取出口(22)をもつ乳化シリンダ(23)を構成し、この乳化シリンダ(23)の中に、上記混合微粉砕刃物(11)とほぼ同様の構成の混合微粉砕乳化刃物(24)をもつ乳化回転ドラム(25)を上記微粉砕回転ドラム(13)とは上下逆の向きとして内蔵すると共にこの乳化回転ドラム(25)において微粉砕物移入口(19)と対応する個所に微粉砕物送入羽根(26)を、同じく乳化物取出口(22)と対応する個所に乳化物送出羽根(27)を周設し、

また、上記の破砕物送出口(3)と破砕物入口(19)とをできるだけ直線とされた破砕物送り管(28)により接続し、この破砕物送り管(28)の基端部分を僅かに細い径として整形密封管(29)を設けると共に破砕物送り管(28)に、整形密封管(29)から送出された破砕物(12)の外周面と破砕物送り管(28)の内周

面と被砕物送り管の内周面との間に形成された空間(4)および微粉砕シリンドロ内を真空として脱気する真空ポンプ(図示せず)を連結するための連結口(4)と第1副原料供給装置(図示せず)を連結するための第1副原料投入口(4)とを設け、

更に、上記微粉砕物送出口(4)と微粉砕物移入口(4)とをできるだけ直線とされた微粉砕物送り管により接続し、この微粉砕物送り管(4)に第2副原料供給装置(図示せず)を連結するための第2副原料投入口(4)を設けたものである。

尚、図中(4)はガイド板(9)の支軸、(4)(4)は微粉砕回転ドラム(4)、微粉砕回転ドラム(4)および乳化回転ドラム(4)の駆動軸、(5)は定量被砕刃物(4)の逃げ用切欠を示す。

面側から見た断面略図、第4図は第3図A-A線に沿う断面図、第5図は微粉砕回転ドラムの展開正面図、第6図は同じく展開平面図、第7図は同じく展開底面図、第8図は同じく展開側面図、第9図は乳化回転ドラムの展開正面図、第10図は微粉砕シリンドロと混合微粉砕刃物の関係を示す断面図、第11図は乳化シリンドロと混合微粉砕刃物の関係を示す断面図、第12図は被砕物移入口とかき取り刃の関係を示す断面図、第13図は被砕刃物を示す正面図、第14図は同じく左側面図、第15図は同じく右側面図、第16図は同じく平面図、第17図はかき取り羽根の一つを示す正面図、第18図は同じく左側面図、第19図は同じく右側面図、第20図は同じく平面図である。

(11)

本発明は副原料(添加物)として卵白、卵黄、食塩、砂糖、澱粉、ゼラチン、植物油、スバオス、香料、中和剤、調味料等の中から選んだものを用いるものであり、また実施に際して凍結ブロック(1)の投入部から送り混合羽根(4)を過ぎる部分までの被加工物と接する面(刃物は除く)には四フッ化エチレンを塗布する。更に、本発明は凍結原料ブロックの投入部を片側だけとして実施することもある。

図面の簡単な説明

第1図は本発明の凍結被砕混合微粉砕連続加工装置の全体を示す正面略図、第2図は凍結原料ブロックの投入部および被砕シリンドロ部を示す正面側から見た断面略図、第3図は同じく側

(1)…凍結原料ブロック、(2)(2)′…投入口、(3)′…被砕物送出口、(4)′…架梁、(5)′…シリンドロ、(7)(7)′…投入筒、(8)′…ホッパー、(9)′…ガイド板、(10)′…保持用板、(11)′…往復動装置、(12)′…刃先、(13)′…定量被砕刃物、(14)′…送り羽根、(15)′…送出羽根、(16)′…被砕回転ドラム、(17)′…補助部、(18)′…被砕物移入口、(19)′…微粉砕物送出口、(20)′…微粉砕シリンドロ、(21)′…刃先、(22)′…刃部、(23)′…混合微粉砕刃物、(24)′…微粉砕回転ドラム、(25)′…かき取り刃、(26)′…傾斜送り面、(27)′…かき取り送り羽根、(28)′…微粉砕物送出羽根、(29)′…微粉砕物移入口、(30)′…乳化物取出口、(31)′…乳化シリンドロ、(32)′…混合微粉砕乳化物、(33)′…乳化回転ドラム、(34)′…微粉砕物送入羽根、(35)′…乳化物送出羽根、(36)′…被砕物送り管、(37)′…整形密封管、(38)′…被砕物、(39)′…

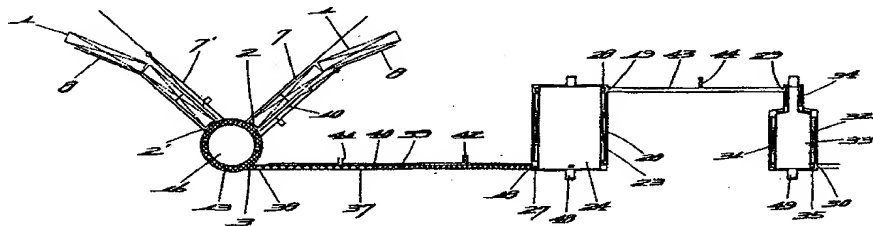
(12)
 空間、40…連結口、42…投入口、43…發粉碎物
 送り管、44…投入口、46…支軸、47(48)49…駆動
 軸、50…切欠。

特許出願人 岩井機械工業株式会社

代理人 弁理士 杉 山 泰 三

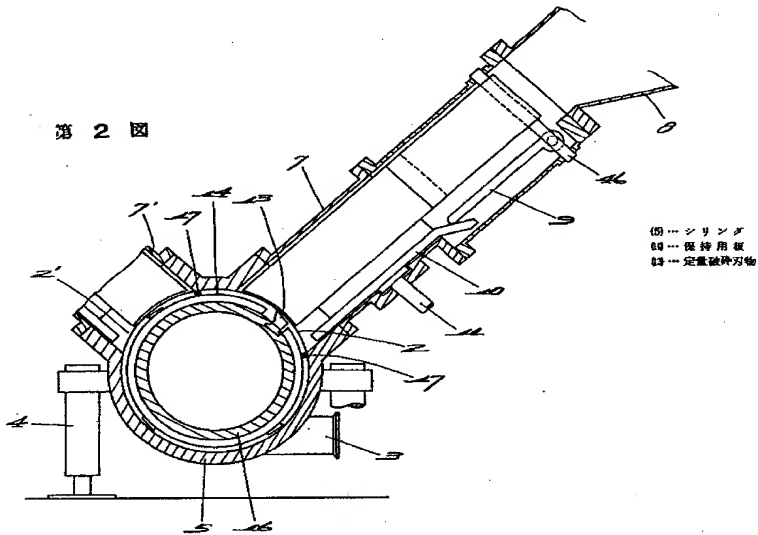


第 1 図

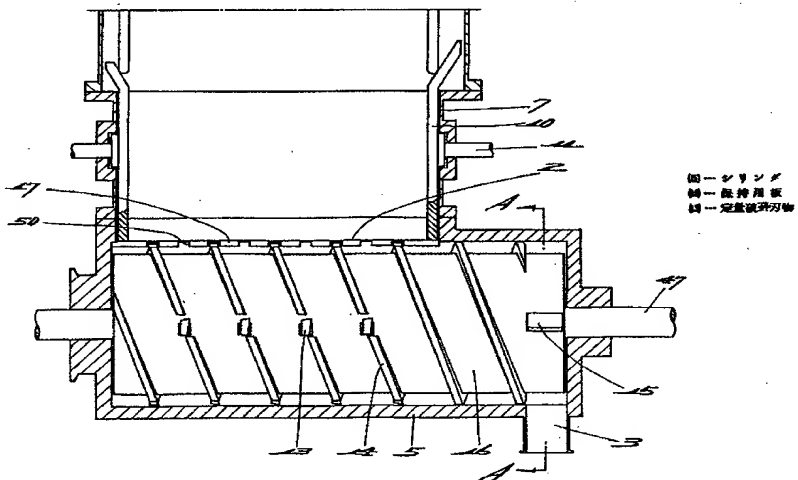


40…破砕回転ドラム
 42…發粉回転ドラム
 43…乳化回転ドラム

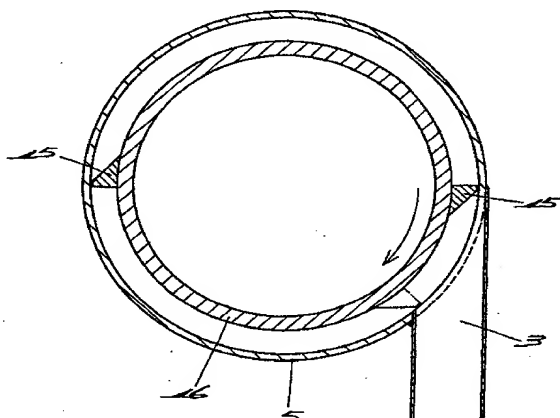
第 2 図



第 3 図

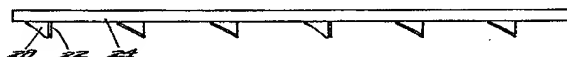


第 4 図⁽¹⁴⁾

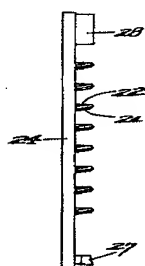


- (5) ... シリンダ
 (49) ... 送出羽根
 (45) ... 破砕回転ドラム

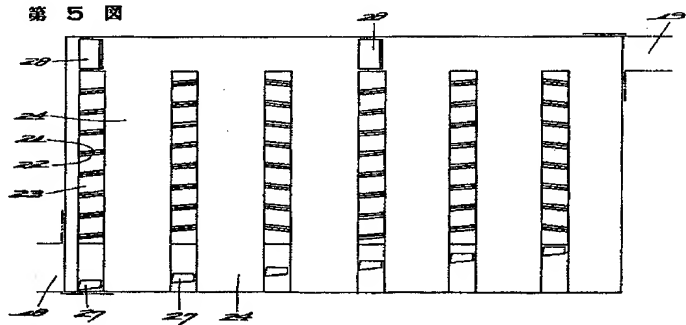
第 6 図



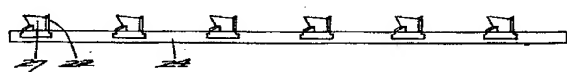
第 8 図



第 5 図



第 7 図

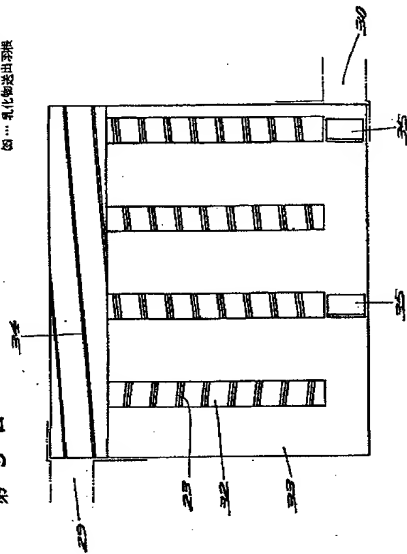


- (20) ... 振台振動砕刀物
 (22) ... 振動回転ドラム
 (24) ... かき取り送り羽根
 (26) ... 振動物送出羽根

(15)

第 9 図

図...乳化工転ドラム
図...微粉砕物混入羽根
図...乳化工転出羽根



第10図

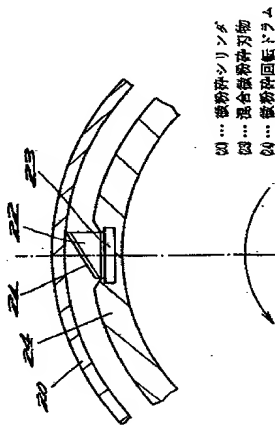


図...微粉砕シリンドラ
図...混合微粉砕羽根
図...微粉砕出転ドラム

第11図

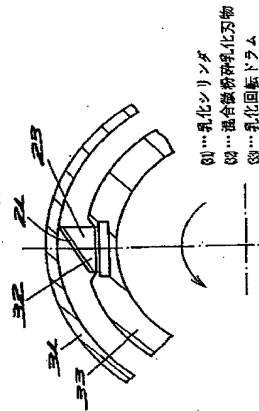


図...乳化工転ドラム
図...混合微粉砕乳化工物
図...乳化工転出ドラム

第16図

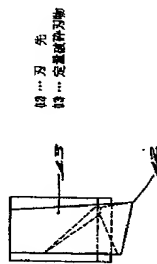
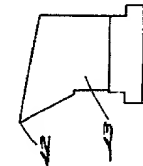
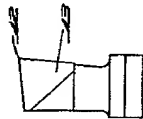


図...乳
図...定量微粉砕物

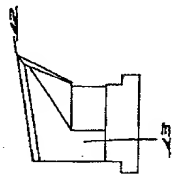
第15図



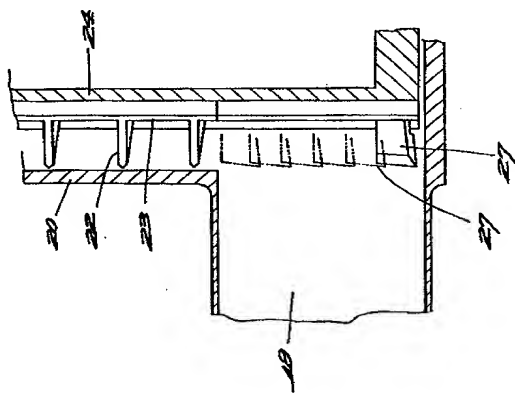
第13図



第14図

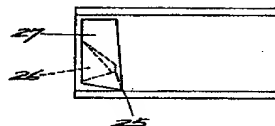


第12図



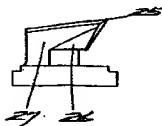
24 ... 破砕物入口
25 ... 縦向き送り面
26 ... かき取り送り羽根

第20図

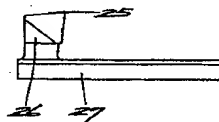


25 ... かき取り刃
26 ... 傾斜送り面
27 ... かき取り送り羽根

第18図



第17図



第19図

